

安倍首相と大手メディア幹部との会食

日時	会食相手	場所
1月7日	読売新聞・渡辺恒雄グループ本社会長	丸の内のパレスホテル東京内の日本料理店「和田倉」
同 8日	産経新聞・清原武彦会長、熊坂隆光社長	赤坂のANAホテル内の日本料理店「雲海」
2月7日	朝日新聞・木村伊量社長	内幸町の帝国ホテル内の中国料理店「北京」
同 14日	産経新聞・清原武彦会長（他に佐々淳行・元内閣安保室長ら）	芝公園のホテル内の中国料理店「陽明殿」
同 15日	共同通信・石川聡社長	白金台の日本料理店「壺中庵」
3月8日	日経新聞・喜多恒雄社長	内幸町の帝国ホテル内のフランス料理店「レゼゾン」
同 15日	フジテレビ・日枝久会長	芝公園のフランス料理店「レストラン クレセント」
同 22日	テレビ朝日・早河洋社長（他に幻冬舎社長）	首相公邸
同 28日	毎日新聞・朝比奈豊社長	ホテル椿山荘東京内の日本料理店「錦水」
4月4日	朝日・曾我豪政治部長、時事・田崎史郎解説委員、読売・小田尚論説委員長ら	永田町・山王パークタワー内の中国料理店「溜池山王 聘珍樓」
同 5日	日本テレビ・大久保好男社長	帝国ホテル内の宴会場「楠」

安倍晋三首相と大手メディア幹部との会食が止まりません。本紙3月31日付で「大手5紙・在京TVトップ首相と会食」と報じて以降も、4日には曾我豪・朝日新聞政治部長、小田尚・読売新聞論説委員長、田崎史郎・時事通信解説委員らが永田町の高級中国料理店で会食。翌日には、大久保好男・日本テレビ社長が東京・内幸町の帝国ホテル内の宴会場で会食しています。

会食はいずれも2時間か、高級割烹やフランス料理店などをおよんでいま す。高級割烹やフランス料理店などを舞台にした大手

社長に続き政治部長・論説委員長らも

メディア幹部との会食は別項のとおりですが、このほかに「報道関係者」との会食が1月10日（赤坂の日本料理店）、3月13日（赤坂の会員制クラブ）に行われています。

ある大手紙記者OBは「社長から局長・部長へ、部長からデスク・キャップへと『会食作戦』はエスカレートするかもしれない」と指摘。「こうした会食は割り勘ではないだろう。ジャーナリズムの世界では『おごってもらったら、おごる』という連環を一面トップから開始していました。その検証すべき対象と政治部長が会食・懇談しながら影響はないのか。ちなみに同日夜、日本政治に詳しい米国の政治学者ジェラルド・カーチス氏は都内の講演で、安倍政権について論じ

欧米ではありえない

門奈直樹さん（立教大学名譽教授、メディア研究者）の話 消費税増税の大キャンペーンを張る裏で時の最高権力者と会食し、自らの利権を守る新聞への軽減税率導入を図るなど、日本のメディアは異常だと思

います。英国では首相とメディア幹部が会食することはまったくなく、そんなことをしたら独立性を失うからです。イブク戦争時のBBC（英国放送協会）会長は、就任以前はブレア首相（当時）と刎頸の間柄でした

が、会長就任と同時に首相からのBBCへの注文を全部暴露しました。それぐらい権力に対して毅然としています。欧米のメディア界にはウオッチドッグ（権力を監視する番犬）という用語があります。今の日本のメディアは、誰にでも愛嬌をふりまくブールドルになっています。戦前、権力との妥協の所産として「不偏不党」の用語を使って権力の補完装置になった歴史が日本にはあります。それと似た状況が出てきています。

ついで、「メディアも安倍政権の宣伝紙のようになっていく。ひどいのは今日の『朝日』。まったく客観性がなく、安倍首相の言っていることを並べているだけだ」と述べています。

政治の最高権力者が何の政治的意図も持たずに接触を求めるはずはありません。欧米では、メディア経営者は現職の政権トップとの接触を控えるのが不文律です。